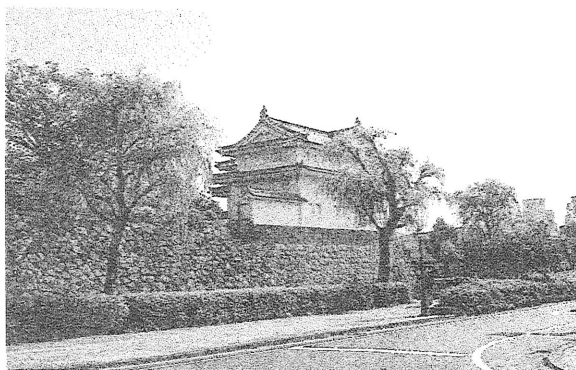
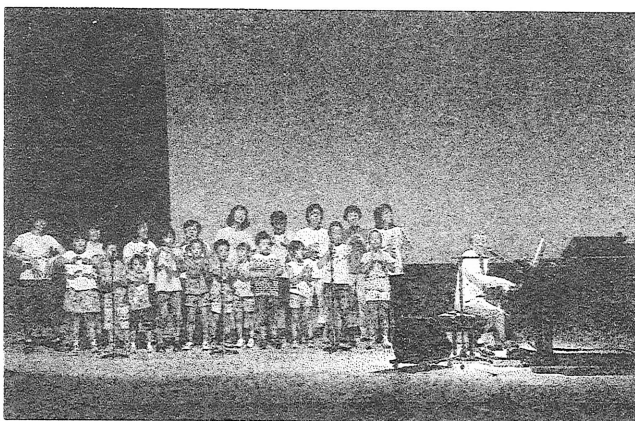


道 教 組

みんなで21世紀の未来をひらく

「教育のつどい」 in 静岡 (8月19~21日)



参加者の感想 (レポーター・司会者)

- ◎レポーター・・・ 永島 敦史 (宗谷) 棒田 志帆 (宗谷)
池田 暁 (宗谷) 犬上 達也 (上川) 田中 豊一 (全釧路)
高松 ゆみ (檜山) 佐竹 秀昭 (檜山) 鈴木 真弓 (檜山)
- ◎司会者・・・内糸 俊男 (檜山)

私は、教育フォーラム「豊かな学びをどうはぐくむか—学習指導要領を考えよう」に参加し、かなり問題点が見えてきて勉強になりました。

さて、「教育のつどい in 静岡」に参加したのは、レポーター8名、司会者1名、教文担当の新保、フォーラムに要請された滝澤さん（檜山）の11名です。

暑い静岡で全国の仲間と交流し・学び合いに参加したレポーターと司会者に感想を書いていただきました。是非、目を通していただき、参加者の思いを感じていただければと願っております。

道教組 新保 裕

「教育のつどい」ほど、レポート発表後の鋭い質問はない

枝幸町 枝幸小学校 事務職員 永島 敦史

6年前の和歌山大会に続いて2回目の参加となった静岡大会。前回の緊張感を思い出しながら静岡の地に向かいました。静岡は小学生のころ栃木から列車で登呂遺跡に何度か足を運んでいたため、土地勘がありました。宿泊するのが初めてなのでちょっと楽しみでもありました。

到着し、その日のうちに下見ということで前回は「たま駅長」でしたが、今回は私鉄の静岡鉄道に乗り込んで、ちびまる子ちゃん列車を撮影しながら会場を見て歩きましたが、開会式当日、清水市へ行ってみると小道さえも警察官の姿があり、物々しい雰囲気が漂っていました。すぐに和歌山の時の緊張感を思い出し、しっかりレポート発表と質問に答えなければという気持ちで身震いがしました。

私も事務職員として全道や全国の他の大会でもレポートを発表する機会を持たせていただいておりますが、「教育のつどい」ほど、レポート発表後の鋭い質問はないと思っています。その分、自分自身にもかなりの勉強となり、次のレポートをきちんと作って発表し、また学ばせていただきたいという気持ちになります。もちろん、今回も鋭く質問をされ、それに答えながら、北海道の代表というだけでなく、「宗谷の教育」の土台をつくる立場として頑張っていきたいと感じました。

今回のレポートについても「続きをよろしく」と言われたので、実践から頑張りたいと思います。また、レポートを発表するだけでなく、自費で行きたいという気持ちにもなっております。今後、残り15年で自分が何を残していけるのか、それを考える場として今後も参加していきたいと思っています。



子どもの実態に応じて、授業づくりを行うこと

礼文町船泊中学校 棒田 志帆

全国教研に参加させていただき、本当にありがとうございました。これからも子どもたち一人ひとりと向き合い、よりリアリティのある美術教育を行っていきたいと思います。



さて、全国の先生方の実践を聞き、学校の規模や地域性など様々な環境の違いで指導する内容が大きく異なることを改めて感じました。同じテーマでも目の前の子どもたちの実態の違いで、子どもたちの作る作品は全く違ったものになるということを、当たり前のことではありますが深く考えさせられました。

ある実践では、平和をテーマにした作品づくりを生徒の作品とともに紹介していました。平和というテーマを子どもたちがリアルに捉え、表現活動を行っていて、その作品のクオリティの高さに驚きました。もし自分の学校でこの題材に挑んだなら、子どもに平和というテーマに向き合うために、犯罪1つ起こらない平和な島でどのように考えさせればよいのか、どのように向き合ったらよいのか、全く違ったアプローチが必要だろうということを考えさせられました。子どもの実態に応じて、授業づくりを行うことの難しさを改めて感じた機会となりました。

子どもや保護者のネット依存

豊富小学校 池田 暁

「教え子を再び戦場に送るな」。自分が教員になり、なんとなく何かの度に聞こえてきていた言葉。それが初めて自分の中でも現実味を帯び、容易に想像できてしまうようになったのは昨年9月。それから1年。今年は更に「教育の集い in 静岡」でその意味と思いを深めることとなりました。「教育と平和」が胸に突き刺さる全体会でした。



この8月に出された新しい学習指導要領の国の考え方、方向性、18才選挙権、どれも国の意図していることが看過できない流れを持っていることを学ぶ事となりました。思いを行動にしていくことの重要さを感じました。そして自分も初めて参加しましたが、全体会に参加している人たちの年齢層を考えたときに、この思いがこれからの教育にきちんとつながっていくのか心配や不安を感じました。

分科会では、第一段として体育・食育・健康に関わる全体会。一向に減らずふくらみつつある、貧困、虐待、自殺の課題のことがあるにも関わらず、それでも国は4年後に行われる東京オリンピック教育を議論や深め合いもないままトップダウン的に教育現場におろして、模索的に行わされ多忙を極めていることなどが話されました。

その後、散会しての健康教育では「生活リズムしらべとメディアについて」のレポート発表の機会をいただきました。子どもや保護者のネット依存がどう子どもの発育発達を阻害し、どのような子どもの実態を生み出しているか、想定しアウトメディアにとりくんだ結果についての発表となりましたが、本校で起きている状況は全国において、どこでも同じような状況の子どもを生み出している、ということがわかりました。ネット依存状態は薬物依存状態と同じ部分にダメージが出て、同じような行動や様子を呈すること、外で遊ぶということがネットデトックスにととてもつながる、ということなどを共同研究者の「子どものからだと心」連絡会議の野井先生から直接ご助言いただく機会に恵まれました。また、養護教諭の先生方、退職され多方面で子どもとずっと関わられ、子どもの様子の変化について学ばれている諸先輩方から多くのご助言をいただき、自分のレポートを更に深め、視野が広がり、もっと学びたいと思いました。

この貴重な機会を与えていただいた、道教組養教部の皆様、そして新保さん、宗谷教組の内藤さん、忙しい時期に激励して送り出していただいた本校の管理職はじめ、あたたかい激励の手紙をくださった職場の分会のみなさんに心から感謝しています。

外国語活動教科化の問題点

南富良野中学校 犬上 達也

教育研究全国集会に初めて参加させていただいたのは、今から15年も前の岐阜県での集会でした。昨秋の全道合研での小生の「子どもも教師も元気が出るアイデアあれこれ」と称したつたない発表にも関わらず「教育のつどい」レポーターに推薦いただき、現役最後の年に学習の機会を得ることができたことに感謝申し上げます。



「外国語教育」分科会は、静岡市の高台に位置する静岡大学教育学部棟を会場に行われ、全国各地より16本のレポートで実践報告の発表がありました。私は緊張

さめやらぬまま、分科会1日目の午前早々に発表を終えました。残りの時間は各都府県からの実践報告の討論に参加することができました。実践報告発表の区切りでは、共同研究者からの各実践報告の講評とともに討論のまとめがされ、安倍教育再生の名のもとで行われる英語教育・小学校外国語活動の問題点や外国語活動教科化の問題点などが報告されました。

2日間を通した分科会での実践報告や討論を通して、「グローバル人材」育成の観点で文科省が進める「生徒の英語力向上推進プラン」が、いかに国民教育としての英語教育の理念を否定するものであるかが明らかになりました。

今集会で明らかになった課題や問題点についてはあらためて整理し、2016 合同教育研究全道集会で報告させていただきます。

「発達」の視点をもつことの大切さ

釧路市愛国小学校

田中 豊一

8月19日～21日、静岡県で開催された教育の集いに参加してきました。

初日の全体集会では地元企画の開会イベントに静岡県の元教員で「君と僕のあいだに」を歌っている歌手の中山譲さんがサプライズ的に登場し歌とトークで盛り上げてくれました。



基調提案の後の全体シンポジウムでは、某体育系大学の憲法学者の方や9条ママの会の代表をされている弁護士さん、18歳選挙権に関わって先進的なとりくみを行っている埼玉の高校の先生が指定討論者として、それぞれの立場から報告がありました。憲法学者の先生から大学の雰囲気として右傾化しているように思われるが、護憲の考え方で活動していても、学長を含め、学問の自由として認められているとのことでしたが、禁じられているわけでもないのに最近、自分たちで自制しようという雰囲気が出てきていることを憂慮する話がありました。18歳選挙権とも関連して教育現場での「政治的中立」とは何かという話では、「政党間のバランスをみるのではなく、正しいことは正しいという真理に立脚することが本当の中立だ」ということに共感しました。

教育フォーラムでは高校での特別支援教育スタートに向けての分科会に参加しました。小、中学校で特別支援教育がスタートする時と似た不安が広がっている感じがしました。小学校、中学校での実践の積み重ねをいかに生かしていくかが大切だ

と感じました。

分科会は特別支援の養護学校小学部の実践の分散会に参加し、小学6年生の生活単元学習の実践を中心に、依存心が強い実態から、人とつながる中で自立していく子どもの姿を報告しました。ほかのレポーターとの交流でも共通の視点として、表面上の行動変容にとらわれず、行動のベースにある気持ちの動きをしっかりとらえるところに立ち位置があることや、目に見えた行動に振り回されないための私たちの基盤として「発達」の視点をもつことの大切さを再認識できた分科会でした。一般参加者の方からも「久しぶりの参加ですが、やっぱり、ここに来る人たちは温かみがある、優しい」という感想がよせられていました。とてもいい学びの場を与えていただきありがとうございました。

実践の新しい価値を見つけることができました

函館市深堀小学校 高松 ゆみ

初めに、私は今回檜山教組として参加させて頂きました。臨探の頃から大変お世話になり、今回もこのような機会を頂けたこと、心より感謝申し上げます。



私は、障害児教育の14分科会のレポーターとして、教育のつどいに参加しました。実践と言っても、あまり大したことはしていないんだよなあ…と、ちょっと弱気になっていましたが、話し始めると、関わっていた子の成長や、その時の自分の気持ちを思い出し、ついつい話すぎてしまったように思います。多くの先輩方にKくんと2年間を知ってもらうことで、実践の新しい価値を見つけることができました。また、実践というのは、何か大それたことをいうのではなく、どんなことを大事にして日々を積み重ねてきたのか？なのだと思います。そういった意味で、先輩方の実践は本当に素晴らしく、自分もこうなりたい！と強く感じました。目の前にいる子どもたちに必要な力を適切なタイミングで指導できるセンス。これは、日々、挑戦して、磨いていくしかないと思います。

学校にいと、心が折れてしまいそうになることが多々ありますが、今回のように学習する機会を頂き、素晴らしいセンスに触れることで、頑張ろう！と思えました。またいつか、実践を発表し、成長したなあと思ってもらえるよう、努力していきたいと思ひます。

原発は日本の将来にとって重大問題

檜山教組 OB 佐竹 秀昭

私は、教職員生活を終えたにも関わらずご縁があつてこの集会に参加し、思い出をつくることができたことに心から感謝しております。

全体会では、現地実行委員会の方々のたいへん温かく丁寧な出迎へと、全体会での熱気や全教の方々のエネルギーを感じて、静岡まで来て良かったと感激しました。全体会のシンポジウムは、「憲法と教育を語る」という内容で、憲法学者と高校教員と「ママの会」事務局の3人のパネルディスカッションでした。それぞれの現状報告と意見交流は良いと思いました。

また、教育フォーラムには「子ども・若者の貧困について語ろう」に参加し、凄まじい現状を知ることができました。私は、今年度で教員を終え僧侶として生活していますが、今回の参加で日本社会と教育の現状の一端を垣間見た経験を、今後の何らかの機会に生かしていきたいと強く感じました。

私が参加した理科分科会では、最初に新学習指導要領についての説明があり、キーワードの「育成すべき資質・能力」で国家権力の学校教育への介入がますます強化されることが再確認されました。今後、この介入を乗り越える実践が次々を出てくることを心から期待します。

私のレポートは「原子力発電を考えさせる」でした。原発は日本の将来にとって重大問題の上、現政権が3.11を省みずに原発を推し進めているという現状で、このレポートによって実践の提案ができて良かったとあらためて感じました。また、私が作成したデータを何人かの方に差し上げることができ、私のつたない実践でもどこかで生かされると思うと嬉しいです。残念ながら北海道へ帰る移動の関係で、分科会は一日だけの参加でした。けれども、小学校のレポートでの非常にレベルの高い「理科通信」や中学校の若い教師集団で生きいきとした実践を積み重ねている様子や高校の実践で、活発な話し合いができて楽しい思い出になりました。

最後になりますが、道教組の新保さんや檜山教組の茶森さんには今回いろいろとお世話になり、たいへん感謝しております。これからも、全教や道教組・檜山教組の発展と組合員の皆さんの教育への更なる貢献を願って感想にかえさせていただきます。



私のレポートにも時間をかけて議論していただきました

乙部町栄浜小学校 鈴木 真弓

組合活動に全く熱心ではなく、レポートだって何年に1回書くかどうかという私。たぶん一生に一度の経験だろうということで、思い切って入院している夫を置いて行くことにしました。



会場に行く途中で、まず驚いたのが、全国教研らしさでした。電車を降りると、多くの警察官が私たちを待ち受けており、経験不足の私は「何だ、何だ。」とあせりました。そして、警察官の前を通り抜けたところでは、右翼の方が大きな声でお話をしておられました。会場に入る前には、ちょっとぐったりしていました。

さて、1日目は、開会全体集会の後、教育フォーラム6『豊かな学びをどうはぐくむかー学習指導要領について考えよう』に参加しました。檜山教組の滝澤圭先生がパネリストとして提言をしており、知らなかった私はびっくり。檜山の実践のすばらしさを改めて感じました。この分科会では、主に新学習指導要領の問題点を学びました。その中でも特にアクティブラーニングについて考えさせられました。

2日目はいよいよレポート発表の本番です。私が参加したのは『発達・評価・学力問題』という分科会でした。テーマが多岐に渡っているため、とても面白かったです。私のつたないレポートも時間をかけて議論していただき、感激しました。私の児童や保護者への関わり方に対しても、「(その子は)先生が向き合ってくれて良かったと感じていると思う」「お母さんにとっても先生が居場所となったのではないか」等の感想をいただきました。参加されている先生方のコメントに、心が温かくなりました。

印象に残っているのは、日教組系の東北の先生が発表していた震災総合学習の話でした。命を考える生きた学習をしていることに感激し、発表を聞きながら涙が出ました。

休憩時間には、全教広島の若い女の先生や高知県教組のベテランの男の先生と楽しく交流する時間も持てました。

一生に一度の(笑)全国教研、しっかり満喫してきました。

参加させていただき、本当にありがとうございました。

改めて技術・職業教育の重要性、可能性を再確認

厚沢部中学校 内糸 俊男

技術・職業分科会の司会を引き受け4年目になりました。今回の開催地は静岡。静岡を訪れるのは10年以上前に技術・家庭科教育の民間教育研究団体である産業教育研究連盟の全国大会に参加して以来でした。当時も同じ8月開催。夏の暑さは確実に数段レベルアップしていました。道南で「今年の暑さはなんだ！」とこぼしていたことを反省させられました。



今年の分科会、例年同様、中学校の技術科、工業、農業、水産、商業といった職業高校からの報告と多岐にわたるものでした。報告の中で、今回最も印象に残ったのは八戸水産高校の田村先生の洋上実習に関するものでした。水産高校では2年生の冬、練習船に搭乗しハワイ沖へ向かい、マグロ漁を行い、帰国するという70日間にわたる実習を行っているとのこと。この実習の意義、実習を経験することによる子どもたちの変容、水産教育の魅力、職業教育の意義が、田村先生から熱く語られました。

技・家庭教育、職業教育共に、一面的な学力向上路線の中では、その意義や価値が論議されるどころか、蚊帳の外となっている現在、改めて技術・職業教育の重要性、可能性を再確認する貴重な時間を過ごすことができました。